

スコール No.35

令和元年12月18日

That's Life

名古屋市立山田高等学校進路指導部

とても不思議なことに、高く登るほど、他の峰が見えるようになるのだ。これは、高い位置に立った人にしかわからないことだろう。ああ、あの人は、あの山を登っているのか、その向こうにも山があるのだな、というように、広く見通しが利くようになる。この見通しこそが、人間にとって重要なことではないだろうか。他人を認め、お互いに尊重しあう、そういった気持ちがきつと芽生える。

『喜嶋先生の静かな世界』 森 博嗣 (講談社文庫)

ちょっと、どきりとした文面だった。

私たちは、道徳的価値として「他人を認め、お互いに尊重しあう」ということの大切さは知っている。だから、なるべくそう振舞おうとはしている。が、本当の意味で「他人を認め、お互いに尊重しあう」ことができているかということ、多くの場合、そうではない。

私の敬愛する漫画家の松本零士氏が、「人が真剣に取り組んでいることを笑ってはいけない。」というようなことをよくおっしゃっているが、同じことだと思う。

すると、高い位置に立つ、つまり、ちゃんと道を究めることが大事なのだろうかあと改めて思った。そうすることではじめて、他の人のことを、自分と価値観の違うさまも、場合によってはまだ高みに達せずに苦労しまくっているさまも、認め尊重することができるのだろう。

どの分野でも高みに上るのは大変だ。しかし、せめてそうあるよう努力はしたいと思った。

新入試制度について Vol. 1

現在の高校2年生が3年生で取り組むことになる大学の入試制度については、英語の民間資格・検定試験の導入延期をはじめ、いろいろ取沙汰されています。今度は、センター試験の後継である「共通テスト」での国語・数学の記述式導入の見送りが17日に表明されました。いろいろな問題が錯綜してしまっているので、その背景や結果などを連載形式で一度整理しておきたいと思います。

まず、延期となった二つの新制度について述べておきます。

新入試制度は、大学入試制度を大きく変更することによって高校での教育内容を変えさせようという思惑で構想されたものでした。通常は高校の教育課程の変更があってから入試が変わるべきはずなのですが、まるで逆の発想で行おうとしていたのが今回の入試改革だったのです。そのため、現在の（中学校や）高校での教育内容が新入試に適合していないのはある意味、当然ということになります。

特に、**延期になった英語の民間資格・検定試験**の導入には、（その是非はともかく）それに対応すべく英語の時間と教員が大幅に増やされ、加えてスピーキングの対応ができる体制が整えられるべきはずだと思いますが、そんな制度設計は全くされていませんでした。

そして、**今回、見送りとされた記述**に関しても採点体制だけでなく問題点・疑問点は多くありました。記述で測りたいとされる能力は確かに大事な能力だと思われます。しかし、それは各大学での試験で測ればよいだけで、事実AO入試や推薦入試では試行問題よりも、よほど高度な思考力・記述力を求める作問がされています。本校の生徒も多く挑戦してきましたし、素晴らしい成果を挙げて合格を勝ち取った生徒も多くいます。基本的には、志望分野での学習を想定したものか、その素養を測る作問になっていました。

だから、採点等の課題（50万人以上の受験生の答案を短期間で、同一基準で適切に採点できるか等）がクリアできることがあり得たにしても、志望分野が全く異なる生徒を対象に、しかも、短期間・同一基準での採点を意識した作問では、あまりよい試験にはなり得なかったものと思われます。

ここで、確認しておきたいことがあります。

新入試制度で、大きな改革が予定されている（いた、部分が大きくなりつつありますが）のは、センター試験の後継となる「共通テスト」です。

もちろん国公立大学を受験する生徒は、基本的には、それが一次試験となるため対応していかなくてはなりません。

しかし、私立大学進学を中心に考えるならば、話はずいぶん違ってきます。私立大学入試のメインとなるのは、各大学で行われる個々の一般入試（「一般選抜」へ名称変更）です。私立大学の合格を得るには、その一般入試を中心にしつつ、AO入試（「総合型選抜」）・推薦入試（「学校推薦型選抜」）の活用を考える方が得策だと思われます。

センター試験（「共通テスト」）を利用した入試方式もほとんどの私立大学が設けていますが、大抵の場合は、定員枠が少なく、成績の上位者が滑り止めで合格を得る枠になっています。（ただ私大でも稀に、特定の学科のみセンター試験の受験が必須となっていることがあります）加えて「共通テスト」は、これまでの「センター試験」よりも難易度を上げることも公表されており、活用しにくくなることが予想されます。いたずらに対応を焦るのではなく、自分の志望校と照らし合わせた上で、冷静に対応を考えていくべきだと思われます。

（参考に裏面の新聞記事もご覧ください。また、次号で、どう改革されるのかをお知らせする予定です。）